

中心静脈カテーテル感染防止のための

マネジメントバンドル 2025

東海血流感染ネットワーク

血流感染マネジメントバンドル作成委員会

委員長：三鴨 廣繁（愛知医科大学大学院）

犬塚 和久（元 JA 愛知厚生連）

大曲 貴夫（国立国際医療センター）

奥平 正美（JA 愛知厚生連知多厚生病院）

笠井 正志（兵庫県立こども病院）

日馬 由貴（大阪大学医学部附属病院）

舟橋 恵二（JA 愛知厚生連江南厚生病院）

松島 由実（岡波総合病院）

村木 優一（京都薬科大学）

村松 有紀（愛知医科大学医学部）

八木 哲也（名古屋大学大学院）

（委員長以下 五十音順）

本バンドルの内容に関し、開示すべき COI はありません

中心静脈カテーテル感染防止のためのマネジメントバンドル 2025

1. ストラクチャー

1-1	一定の教育を受けた者が挿入する院内の認定制度が構築されている	☐ Yes ☐ No
1-2	挿入に関連した感染対策標準作業手順書が作成されている	☐ Yes ☐ No
1-3	挿入に関連した感染予防対策の知識や技術についての研修が定期的（年 1 回以上）に開催されている	☐ Yes ☐ No
1-4	CVC 関連血流感染症における使用比と感染率を部署ごとに算出している	☐ Yes ☐ 全部署 ☐ 一部の部署 ☐ No
1-5	CVC 関連血流感染症に関連したデータをフィードバックし、改善を促すシステムがある	☐ Yes ☐ No
1-6	トラブルが発生した場合は、報告や相談を行う手立てが講じられている	☐ Yes ☐ No
1-7	高カロリー輸液製剤（TPN）の混合は、薬剤部の無菌調製下において行う体制がある	☐ Yes ☐ No
1-8	血液培養が陽性的場合、CVC 関連血流感染症かどうかを総合的に判断する仕組みがある（培養検査の結果のみでコンタミネーションと判断していない）	☐ Yes ☐ No
1-9	CVC を用いた薬物療法が終了した時点から、カテーテル留置の必要性について毎日医師と評価し、抜去可能かどうかを検討している。	☐ Yes ☐ No

2. プロセス（挿入前）

2-1	PICC の適応について検討した ※PICC：Peripherally Inserted Central Venous Catheter（末梢挿入型中心静脈カテーテル）	☐ Yes ☐ No
2-2	鼠経部を挿入部位として選択しなかった	☐ Yes ☐ No
2-3	カテーテルのポートおよびルーメンの数は必要最小限のものを選択した	☐ Yes ☐ No
2-4	カテーテル挿入前にシャワー浴、または清拭を行った	☐ Yes ☐ No

3. プロセス（挿入時）

3-1	個人防護具着用前に手指衛生を実施した	☐ Yes ☐ No
3-2	挿入時はマキシマル・バリアプリコーション（滅菌手袋、滅菌長袖ガウン、マスク、キャップ、全身を覆うドレープ）を下記の手順で行った ① マスクとキャップをつけたあと、手指衛生を行った ② 滅菌長袖ガウン、滅菌手袋を表面に触れないように着用した ③ 全身を覆うドレープを用いて清潔野を確保した	☐ Yes ☐ No
3-3	エコプローブは、専用の滅菌カバーを用いるなど、無菌操作ができる環境下で使用した	☐ Yes ☐ No
3-4	下記のいずれかを用いて挿入部位を消毒した ☐ ポビドンヨード	☐ Yes ☐ No
3-5	☐ アルコール含有ポビドンヨード	
3-6	☐ クロルヘキシジン	
3-7	☐ 0.5%以上のクロルヘキシジン含有消毒用エタノール	

3-8	消毒は、皮膚の菌量を物理的に減少させるようにスクラブ*した *スクラブ＝皮膚を傷つけない程度の圧を加えながら皮膚をゴシゴシ擦る作業	☐ Yes ☐ No
3-9	挿入後は、①手袋 → ②手指衛生 → ③キャップ・マスク → ④長袖ガウン の順序で個人防護具を外した	☐ Yes ☐ No
3-10	個人防護具を外したあとに手指衛生を実施した	☐ Yes ☐ No

4. プロセス（留置中）

4-1	挿入部位の固定材料は、挿入部位が観察できるフィルムドレッシング材を優先して選択した *ドレッシング材：滅菌かつ半透過性に優れたカテーテル専用の透明フィルムドレッシング	☐ Yes ☐ No
4-2	浸出液や多量の発汗がない場合は、フィルムドレッシングで固定し、1 回/週交換した	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず
4-3	浸出液や多量の発汗がある場合は、ガーゼまたは吸収性のあるドレッシング材を使用し、2 日ごとに交換した	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず
4-4	ドレッシング材もしくは固定テープに、交換日を記載した	☐ Yes ☐ No
4-5	1 日 1 回以上、発熱、発赤・腫脹・圧痛などの感染兆候の観察を行いカルテに記載した	☐ Yes ☐ No
4-6	高カロリー輸液の混合調製は、薬剤部で無菌的に行った	☐ Yes ☐ No
4-7	アクセスポートの消毒はアルコール製剤を用いてスクラブした *プロセス（挿入時）3-8 参照	☐ Yes ☐ No
4-8	輸液セットは、付属品を含めて施設で定められた間隔で交換した	☐ Yes ☐ No
4-9	シャワー浴を行う場合は、カテーテルおよび挿入部位をドレッシング材で被覆した	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず

ストラクチャー	項目/	項目	遵守率	%
プロセス（挿入前）	項目/	項目	遵守率	%
プロセス（挿入時）	項目/	項目	遵守率	%
プロセス（留置中）	項目/	項目	遵守率	%
合計	項目/	項目	遵守率平均	%

このバンドルの使用方法について

● バンドルの目的と説明

- このバンドルは原則として CVC の挿入に関する施設の取り組みの確認（ストラクチャー）と個別の挿入事例に関する手技の確認（プロセス）を目的としています

● チェックボックスの説明

- それぞれの項目に該当しているかどうかを原則として「Yes」「NO」で記録します
- 症例や施設が記載された項目に該当しない場合は「該当せず」で記録します

● 遵守率の算出方法

遵守率の欄には部門ごとに「該当せず」を省いた「Yes/No」の総数を分母とし、「Yes」の数を分子として算出します